

仕事人秘録

富士市産業支援センター
(f i b i z、エフビズ)が軌道に乗り始めて数年。熱海市の職員がやってきました。

その人の名前は田辺国治さん。経済産業省から熱海市に副市長として出向してきたばかりでした。田辺さんとは彼が中小企業庁にいたときに企業支援などで情報交換する仲でした。熱海市は昭和の高度成長期やバブル期には多くの観光客でにぎわいましたが、田辺さんが着任した2011年ころは厳しい財政運営を余儀なくされていました。

「エフビズモデルを熱海にも導入したいが予算がない。どうすればいいですか」というのが田辺さんの相談です。そこで、まず2人の市

行列のできる経営相談所 ②

富士市産業支援センター長
小出 宗昭氏



熱海市の田辺国治副市長(当時、左から2人目)らとの打ち合わせ

会心コピーー熱海ロケ誘致

路使用申請の代理提出、許可証の代理受領など。「そんなことまで、無料でやってくれるの」と言われるまでお手伝いをするのです。ネーミングも良かった。「熱海でロケをしたい」という申し入れがたくさん来ました。いま熱海は再びブームとなっていますが、少しはお役に立てたと思います。田辺さんが「アイデアマン」とか「市長の懐刀」

12年のことです。地域に根ざす全国の信用金庫などからも相談を受けるようになる。まずは地元と企業の情報を知らないことには始まりません。情報が集まらないとコンサルティング業務はできないからです。でも実は情報が何なのかはわかりません。都内のある信金には全ての職員に「面白い」と思っていることを集めてもらうことにしました。

経営者の趣味や店の陳列方

職員に地域企業の課題を把握してもらい、その対応方法をエフビズでディスカッションしました。

私は熱海は首都圏に近くブランド力もあり、魅力的な地域だと思っていました。もっと熱海を知ってもらえば観光客を増やせる。そのためにはメディアに取り上げてもらい、お金をかけずに徹底的に露出する戦略

をアドバイスしました。その後、田辺さんは「A D さはうれしかったです。この流れのなかで熱海市に「熱海市チャレンジ応援センター」(A B i z)が誕生します。市と商工会議所が連携して、新たな取り組みに挑戦する市内の事業者を知恵と工夫、情報とネットワークを駆使して応援する組織です。エフビズがサポート役となりまして勢が大切なのです。

「熱海でロケをしたい」という申し入れがたくさん来ました。いま熱海は再びブームとなっていますが、少しはお役に立てたと思います。田辺さんが「アイデアマン」とか「市長の懐刀」

12年のことです。地域に根ざす全国の信用金庫などからも相談を受けるようになる。まずは地元と企業の情報を知らないことには始まりません。情報が集まらないとコンサルティング業務はできないからです。でも実は情報が何なのかはわかりません。都内のある信金には全ての職員に「面白い」と思っていることを集めてもらうことにしました。